



1.LED キャンドルに願いを書いた人見さんと長谷川さん（保原総合公園）/2.復興を見守るまちの駅やながわのツリー /3. 幻想的な灯りの中、かけだまちなかサロン Yottemi ではコンサートが開かれた /4.LED ライトで、クールな印象にイメージチェンジした陣屋通り

「希望のあかりを灯す」

12月は市内各地でイルミネーションが灯されました。このうち保原総合公園で行われた「保原に希望のヒカ리를灯そう」では、保原地域の小学生が願い事を書いたLEDキャンドル1,000個あまりがツリーに飾られました。保原小6年の人見羽奏さんと長谷川心美さんは、それぞれ「家族と旅行がしたい」「コロナが収束しますように」との願いを書きました。思い切り遊ぶのが難しかった2020年。「2021年はマスクを外して出かけたい!」と元気に話してくれました。

市長コラム



第28回 “感謝の言葉は要りません”に込められた想い

新型コロナウイルスの感染拡大で医療がひっ迫し、特に患者さんの最も近くにいる看護師が足りないと言われていています。

一般社団法人日本看護管理学会は12月10日、ホームページに「私たちは自分の仕事を全うするだけです。感謝の言葉は要りません。ただ看護に専念させて欲しいのです。」との声明を公表しました。一部新聞でも記事が掲載されました。過酷な医療の最前線で献身的に従事する看護師の使命感と覚悟、しかし世間から向けられるいわれなき差別や偏見に苦しむ姿がつづられています。

私たちは今まで、医療従事者の皆さんの本当の大変さをわかっていたのでしょうか。「感謝の言葉は要りません」という言葉の中には、私たちに対し“もっと責任ある慎重な行動をとってほしい、絶対に気を緩めないでほしい”との強い想いが込められていると感じました。

年末年始で飲食や飲酒の機会が増えると思いますが、改めて、少人数・短時間・マスク着用など基本的な感染対策を守って、まずは自分自身が感染しないための“静かな年末年始”を過ごしていただくよう切にお願いします。

須田博行